

小さなきっかけ、大きな経験

小片美佳 29歳

私は高校生の時に「原信サマースカラシップ」に参加しました。きっかけは、母の紹介でした。アメリカでの10日間の生活は、何もかも初めての経験でしたのでとても新鮮でした。特に、英語が話せたわけでもないのですが、アメリカの人とジェスチャーなどでコミュニケーションがとれたことが楽しくて忘れられない経験になりました。日本人として誇りをもつこと、自分の意見を主張できること、相手との違いを楽しむことなどこの経験で得たことはたくさんあります。この経験があったからこそ、その後オーストラリアで幼稚園教諭として3年間働くことができました。すべては「原信サマースカラシップ」がきっかけでした。今度は私が高校生にきっかけを作れたらと思い、引率の立場で「原信サマースカラシップ」に参加します。

II 市民協働 story II

地方の一民間企業が20年に渡り、日米の高校生の「相互ホームステイ」交流費用を提供し、青少年の国際理解推進に貢献されているというのは世界的にも珍しく注目を浴びており、原信一前社長は2008年にワシントンDCに本部を置く国際姉妹都市協会からアメリカ人以外では初となる「最優秀ボランティア賞」を受賞されました。また、実施に当たっては長岡市国際交流協会と連携し、社長自らも参加し会社全体でパーティーや日本文化紹介などサポートもしていただいていることも特筆すべき点です。これまで401名が相互交流。多くの参加者から「人生にとって大きな転機となった」と聞きます。民間企業の地域貢献や人材育成に対する熱い思いが、大きな実を結んでいます。

異文化体験を若い世代に

原信ナルスホールディングス株式会社

原信サマースカラシップは、1991年にスタートしました。原信一前社長の「会社を育てて下さった長岡地域の方々に恩返しをしたい」という思いから始まり、「若い世代に世界的視野を持ってもらおう」ということで、当時スタートして間もない長岡市国際交流協会の派遣事業に参画することになりました。

このプログラムは高校生を対象とし、長岡市とフォートワース市の代表がお互いにホームステイし、日常生活を通じてそれぞれの国の文化を体験しようというものです。

参加者が国際的な視野を身につけ、日本と世界との懸け橋になってくれることを期待しています。

